

2

あさひ幼稚園再建への道 (ユニセフとともに)

宮城県本吉郡南三陸町平成学園あさひ幼稚園 教諭 遠藤 ゆみ子 先生

山から海へと豊かな自然環境がコンパクトにつながる町。南三陸町。

広い農地や、名だたる名所があるわけでもないこの町が作り出したもののひとつ。民泊での農業・漁業体験。

こども達を対象にしたこの活動は、町民の協力なしでは成り得ない。町民のよき人柄が全面にでた活動でもある。人材が誇れる町、この町のこども達が通ってくるのが、当幼稚園です。

朝日がふりそそぐ広い廊下が自慢の幼稚園。



この廊下で、こども達は登園と同時に、思い思いの活動を繰りひろげています。年齢に関係なく交流し、いろんな場面が日々ドラマのごとく展開されます。それは、年上の子の年下の子への思いやりだったり、先輩後輩の関係だったり、中にはリアルなおままごとがきっかけの家庭内情報交換であったりします。

こども達は、設定のない現実の中で様々なことを学んでいきます。

そんな、こども達の居場所が・・・津波は容赦なく園舎を土台ごと奪っていきました。

町は壊滅。町全体がガレキの山と化した中、復興をイメージできた人が何人居たでしょうか。水道もなく、電気もなく、知り合いに会えば無事を喜び合いひたすら涙にくれる人々。卒園式を間近にしながら、幼稚園は無期限の休園。職員は解雇でした。

町立の保育所は再開に向け準備を始めていましたので、やはり私立の経済的な弱さを痛感せずにはいられませんでした。同じ幼児施設であるのになぜだろうかと無力感でいっぱいでした。

そんな中、力強く援助の手をさしのべてくれたのがユニセフでした。園児の保護者からの強い要望とそれに答えてくれた町が一緒になっての幼稚園再建プロジェクトが始まりました。

「日本一、いや世界一の幼稚園を造りましょう」ユニセフ担当者のそのことばは、再建へ向け、職員一同喜びを見出した瞬間でした。園舎建設と並行しながら園児と保護者と職員に向けてのサポートが始まりました。失いかけた自信とプライドそして想像できなかった明るい未来。どれだけ心強かったことか。この話は、園に関わる人ばかりではなく、町全体に明るいニュースとして伝わりました。きっと、私たち同様、何かしら突き動かされ何かしようと思ったに違いありません。

何から何まで普通でない中、迅速にかつ着実に事をなすユニセフ。それでいて、私たちに寄り添い気持ちをくみながらの活動・・・あれから1年半私達を支えてくれたプロジェクトを紹介します。

祈りのツリープロジェクト

仮園舎の横にある大きなモミの木を知ってか知らずか、中くらいのモミの木がユニセフから届きました。

次々運び込まれる包みに、こども達も興味津々。クリスマスツリーであることを告げると、歓声とともに他のこども達も集まってきます。興奮冷めやらぬ間にその場で開封すると、なんと、シーン……

震災で全てをなくし何でも喜んでくれると思っていましたがなんだか様子が違います。こども達はひかり輝くツリーを、期待していたようでした。

そんな中、プロジェクトチームがにこやかに来園。色とりどりのペンやおりがみ。キラキラシールであっという間にこども達をとりこにしていきました。トナカイや煙突のついたおうち等、おなじみのモチーフを受け取ると、いつものクリスマスが思い浮かぶのでしょうか。思い思いに描き始め、あっという間に予定時間が過ぎていきました。こども達からそっぽを向かれていたモミの木も賑やかに飾り付けられ面目を保てたことは言うまでもありません。

この冬、自宅にツリーを飾れた子は何人いたでしょう。重なり合った布団で眠る仮設住宅、自宅は残っても気兼ねで華美な事を避けてしまいがちな家。そんな中、自由に思いのままキラキラをちりばめたツリーはこども達の心にかつての日常をそっと届けてくれました。世界中からの、元気になあれ！という思いが実をむすびつつあります……ありがとうユニセフ。

「世界手洗いの日」プロジェクト

10月15日の「世界手洗いの日」にちなみ、ユニセフのみなさんと手洗いプロジェクトを行いました。

手洗いの勉強をします！こどもたちは、何の事、とばかりにあまり興味を示さないようでしたが、見慣れたユニセフのみなさんを見つけると嬉しそうに駆け寄っていました。

ここでは、ユニセフのみなさんもアイドルのように人気です。何か指導する場合、指導者に興味があるかないかで成果が違ってきます。その意味で、こどもたちの心をがっちりつかんだ今回のプロジェクトに早くも成功の兆しありです。

まず、DVDと紙芝居で手洗いの大切さを勉強しました。アフリカの国々では、手を洗わない事により病気になる幼い命が失われていること、そして、自分以外にも病気を移していることなど、子ども達にはたやすく理解できる内容ではありませんでした。でも、何かしら感じとったようで子ども達の表情は真剣です。

その後、ダンサーの森山開次さんと手洗いダンスを踊りました。手洗いの順番と洗い方が盛り込まれたダンスに、こどもたちは見よう見まねで楽しそうに踊っています。途中実際に手洗いをする場面ではなかなか



水道から離れない子もいて、ある意味目的達成ではなかったでしょうか。手洗いという、一連の動作を6つのポイントに区切り指導の手順としたことは、とてもわかりやすく私たち保育者も目からうろこでした。

こどもは水あそびが大好き。せっけんのあわが加わればそれは無敵。香りの中で、すべすべの感触を楽しみながら想像力を働かせていつまでも遊んでいます。幼稚園では束の間ですが・・・先生の「早くいっしょ〜い」の声と友達「かして」の声に終了を余儀なくされます。

こども達にとっては、遊びの延長線上にあった手洗いが、いのちを守る大切な行為であることをどれだけ理解したかは不明です。でも、いつもはてのひらしか洗わないこども達が指をいっぱいに広げて洗っている風景に、きっと大丈夫、直ぐ理解してくれると思いました。

長谷部選手による支援

あさひ幼稚園の再建をサッカー日本代表キャプテン長谷部誠選手が応援してくれる。

夢のような話。長谷部選手が、自身の呼びかけに応じて下さった読者のみなさんの気持ちを形にしたいという思いから始まり、本の印税とチャリティイベントの収益金が園舎の再建に充てられることになりました。

師走も押し迫った12月、一日長谷部先生ということで、紙芝居やサッカー教室を開いてくれました。

紙芝居では、とても照れくさそうでしたが、年長児相手のサッカー教室では、水を得た魚のように生き生きとしています。2列に並んでのドリブル練習から始まり最後はミニゲーム。こども相手でも、長谷部選手は点をとりに行っていました。そんな長谷部選手の姿に負けじとこども達も大奮闘。小さなゴールネットを揺らす長谷部選手のシュートには愛情がたっぷりでした。滞在時間1時間ではありましたが、こどもたちにとっては大満足の日でした。

あれから、こども達はサッカーが大好き。ボールを蹴る姿もいくぶん様になってきました。

ワールドカップ3次予選。家族みんなで観戦しているようで、翌日長谷部選手の話の口火をきったのはこども達です。大人は勝敗を真っ先に口にするのに、こども達は長谷部選手の怪我のことを気にしていました。ちょっぴり物知りになったこども達の笑顔に家族みんなが笑顔になったことは間違いありません。

2度目の来園では、長谷部選手もゆったりとこども達との触れ合いを楽しんでいました。インタビューの際、「無限の可能性を秘めたこども達と一緒にサポートできる事を心から嬉しく思っています」と話していました。とても心強く、私達も一緒に頑張ろうと改めて思いました。

